

名刀紀行 一京・大和と九州一

2021年6月5日(土)~7月11日(日)

主催：徳川美術館・名古屋市蓬左文庫

古くから日本各地で刀剣が生産されてきましたが、なかでも山城国（京都府）と大和国（奈良県）は都が置かれたことから、朝廷の儀式に刀剣を用いる貴族や、大和国に点在する大寺院が自衛のために置いた僧兵の需要に応じた作刀が盛んに行われました。また大和国の刀工たちの作風は、九州の刀工たちに少なからぬ影響を及ぼしました。山城国・大和国を中心とした畿内の刀工の作品や九州の刀工の作品を紹介します。

- ・作品番号の左横の「◎」は国宝、「○」は重要文化財、「○」は重要美術品です。
- ・都合により出品作品が変更になる場合がございます。
- ・展示リストの順番は陳列の順番と必ずしも一致しません。
- ・所蔵は全て徳川美術館です。

No.	作品名	所用者・伝来など	時代・世紀
第1章 山城国の刀工			
1	短刀 銘 宗近 名物 海老名小鍛冶（三条派） 初代越前康継再刃（大坂焼物）	足利将軍家・豊臣秀吉・徳川家康所持 駿府御分物	平安 12
2	○ 刀 無銘 吉家（三条派） ○ 本阿弥光忠折紙 元禄拾年丑閏二月三日	松平信古（三河吉田松平家7代）・徳川義宜（尾張家16代）所持	平安・鎌倉 12-13 江戸 元禄10年〈1697〉
3	○ 太刀 銘 近村（三条派）	徳川将軍家伝来	平安 12
4	○ 刀 無銘 兼永（五条派） 本阿弥光忠折紙 正徳四年午霜月三日	飯田新右衛門・徳川家康所持 駿府御分物	平安 12 江戸 正徳4年〈1714〉
5	○ 刀 無銘 国安（粟田口派） 本阿弥光忠折紙 元禄拾年丑霜月三日	徳川綱吉（5代将軍）・徳川吉通（尾張家4代）所持	鎌倉 13 江戸 元禄10年〈1697〉
6	◎ 太刀 銘 国綱（粟田口派） 葵紋黄金造毛抜形太刀拵	徳川吉宗（8代将軍）・徳川将軍家伝来 徳川将軍家伝来	鎌倉 13 江戸 18
7	小脇指 銘 久国（粟田口派）	梁川（大久保）松平家伝来	鎌倉 13
8	○ 剣 銘 国吉（粟田口派）		鎌倉 13
9	◎ 短刀 銘 吉光 名物 後藤藤四郎（粟田口派）	後藤庄三郎・徳川家光（3代将軍）・徳川光友（尾張家2代）所持	鎌倉 13
10	○ 短刀 銘 吉光 名物 庖丁藤四郎（粟田口派）	大谷吉継・徳川家康所持 駿府御分物	鎌倉 13
11	短刀 無銘 吉光 名物 無銘藤四郎（粟田口派） 蠟色塗合口拵	生駒正俊・徳川秀忠（2代将軍）・徳川義直（尾張家初代）所持 伝徳川家康所用	鎌倉 13 江戸 17
12	短刀 銘 吉光（粟田口派） 本阿弥光忠折紙 元禄拾年丑八月三日	徳川綱吉（5代将軍）・徳川綱誠（尾張家3代）所持	鎌倉 13 江戸 元禄10年〈1697〉
13	脇指 銘 吉光 名物 鯨尾藤四郎（粟田口派） 初代越前康継再刃（大坂焼物）	織田信雄・豊臣秀吉・豊臣秀頼・徳川家康所持 駿府御分物	鎌倉 13
14	◎ 太刀 銘 国行（来派）	徳川家光（3代将軍）・徳川義直（尾張家初代）所持	鎌倉 13
15	◎ 太刀 銘 来孫太郎作（花押）正応五年壬辰八月十三日（来 徳川家康所持 駿府御分物） 本阿弥光温折紙 承応参暦午極月三日 葵紋蒔絵糸巻太刀拵		鎌倉 正応5年〈1292〉 江戸 承応3年〈1654〉 江戸 17
16	◎ 太刀 銘 来国俊 正和二二(四)年十月廿三日□□歳七十五（来派） 本阿弥光勇折紙 宝暦拾年辰卯月三日	徳川家重（9代将軍）・徳川宗勝（尾張家8代）所持	鎌倉 正和4年〈1315〉 江戸 宝暦10年〈1760〉
17	長刀 銘 了戒子息久信作 徳治三年戊申十月六日（来派）		鎌倉 徳治3年〈1308〉
18	太刀 銘 信国（来派） 黒塗大太刀拵	徳川光友（尾張家2代）所持	室町 14 江戸 17
19	短刀 銘 長谷部国重（長谷部派） 蠟色塗合口拵	徳川光友（尾張家2代）所持 徳川光友（尾張家2代）所用	南北朝 14 江戸 17
20	鎧通 銘 平安城藤原長吉作 黒漆皺塗腰刀拵	徳川宗睦（尾張家9代）所持 徳川宗睦（尾張家9代）所用	南北朝-室町 14 江戸 19
21	刀 銘 洛陽一条堀川住信濃守国広造 慶長十六年二月日	梁川（大久保）松平家伝来	江戸 慶長16年〈1611〉
22	長刀 銘（菊紋）近江守源久道 寛保元年酉八月日		江戸 寛保元年〈1741〉
23	長刀 銘 伊賀守藤原金道 日本鍛冶宗匠		江戸 19
24	脇指 銘 出羽大掾藤原国路 寛永六年八月吉日		江戸 寛永6年〈1629〉
第2章 大和国の刀工			
25	短刀 無銘 天国		室町 15
26	刀 無銘 千寿院（千手院派） 黒塗革張桐紋唐草彫金具サーベル拵	徳川義礼（尾張家18代）所持 徳川義礼（尾張家18代）所用	室町 16 明治 19
27	短刀 無銘 保昌貞吉（保昌派）		鎌倉 13-14

No.	作品名	所用者・伝来など	時代・世紀
28	短刀 無銘 保昌（保昌派）	徳川家康所持 駿府御分物	鎌倉 13
	本阿弥家極札		江戸 17
29	太刀 銘 包永（手搔派）	徳川家斉（11代将軍）・徳川斉朝（尾張家10代）所持	鎌倉 14
	本阿弥光一折紙 寛政八年辰霜月三日		江戸 寛政8年〈1796〉
30	脇指 象嵌銘 包永（手搔派）	徳川治行（尾張家9代宗睦嫡子）所持	室町 15
	本阿弥忠英添状		明治 19
31	脇指 額銘 包永（手搔派）		南北朝 14
32	小脇指 銘 金房兵衛尉政次（手搔派）	真相院鴻子（登代・尾張家18代義礼夫人）所持	室町 16
33	指賀 銘 南都藤原包守（手搔派）		江戸 17
34	刀 無銘 有俊（当麻派）	徳川宗春（尾張家7代）所持	鎌倉-南北朝 14
	本阿弥光常折紙 延宝五年巳卯月三日		江戸 延宝5年〈1677〉
35	短刀 朱銘 タハマ 光室（当麻派）	徳川綱誠（尾張家3代）所持	鎌倉 14
	本阿弥光温折紙 寛永二十年拾貳月三日		江戸 寛永20年〈1643〉
36	小脇指 無銘 当麻（当麻派）	徳川光圀（水戸家2代）所持	鎌倉 14
37	小脇指 無銘 当麻（当麻派）	徳川吉通（尾張家4代）・松平義賢所持	鎌倉 13-14
38	劍 無銘		鎌倉 13-14

第3章 畿内の刀工

39	刀 銘 資正作（和泉国）		室町 15
	刀 銘 越前守助広（摂津国）	浅野慶熾（広島浅野家12代）所持	江戸 17
40	本阿弥光明折紙 安政六年六月三日		江戸 安政6年〈1859〉
	蠟色塗刀拵	浅野慶熾（広島浅野家12代）所用	江戸 19
41	刀 銘 陸奥守包保（摂津国）		江戸 17-18
42	刀 無銘 高木貞宗（近江国）	徳川継友（尾張家6代）所持	鎌倉 14
	本阿弥光温折紙 寛永拾四年七月三日		江戸 寛永14年〈1637〉

第4章 九州の刀工

43	脇指 無銘 西蓮（筑前国）	國分家寄贈	室町 16
44	太刀 銘 左 名物 大左文字（筑前国 左文字派）	豊臣秀吉・徳川家康・豊臣秀頼・徳川家光（3代将軍） ・徳川義直（尾張家初代）所持 駿府御分物	南北朝 14
	紺地牡丹唐草文金襴刀袋 文字織出「大左文字」		江戸 18
45	刀 銘 左文字吉見正頼研上之 永禄九年八月吉日	吉見正頼・徳川家康所持 駿府御分物	南北朝 14
	名物 吉見左文字（筑前国 左文字派）		江戸 18
46	短刀 朱銘 左安吉（筑前国 左文字派）	本多忠義・徳川義直（尾張家初代）所持	南北朝 14
	本阿弥光温折紙 寛永十七年辰三月三日		江戸 寛永17年〈1640〉
47	短刀 銘 筑州住国弘作 正平十二年二月日（筑前国 左文字 徳川家康・徳川光友（尾張家2代）所持		南北朝 正平12年〈1357〉
	蠟色塗合口拵		江戸 19
48	刀 無銘 三池（筑後国）		鎌倉 13-14
49	刀 銘 肥前国住人忠吉作（肥前国）	徳川家斉（11代将軍）・徳川斉朝（尾張家10代）所持	江戸 17
	本阿弥光一折紙 寛政参年亥卯月三日		江戸 寛政3年〈1791〉

小刀

	小刀 銘 日本鍛冶宗匠伊賀守 藤原金道（山城国）	明治天皇・徳川慶勝（尾張家14代）所持	江戸 18-19
	小刀 銘 埋忠（山城国）	徳川慶勝（尾張家14代）所持	江戸 19
	◎小刀 銘 山州姉小路住人宗定（山城国）	霊仙院千代姫（尾張家2代光友正室）所持	江戸 17
	小刀 銘 出羽大掾国路（山城国）		江戸 17
	小刀 銘 近江守源久道（山城国）		江戸 18-19
	小刀 銘 千寿院力王（大和国 千手院派）		江戸 17
	小刀 銘 文珠四郎包元（大和国 手搔派）		江戸 17
	小刀 銘 河内守国助（摂津国）		江戸 17

蔵帳と刀剣書籍

蔵帳			
	駿府御分物御道具帳 11冊・1通のうち		
	御腰物之帳（一）		江戸 元和4年〈1618〉
	目貫かうかい帳（二）		
	御天守二有之候御腰物御脇指帳 慶安四卯三月廿六日		江戸 慶安5年〈1651〉
	御腰物元帳 2冊		江戸 延享2年〈1745〉
	御腰物元帳（文政年間） 第1巻 仁ノ部御大切御道具ノ部 6冊のうち		江戸 19
刀剣書籍			
	本阿弥光徳刀絵図（複製 原本 文禄3年（1594）作成）		昭和10年〈1935〉
	銘物鑑（享保名物帳） 原本：江戸時代 18世紀		明治3年〈1870〉
	本朝鍛冶考 鎌田魚妙著 12冊のうち		江戸 寛政12年〈1800〉
	慶長以来新刀弁疑 9冊のうち		江戸 安永8年〈1779〉